

第100回宇和島市議会定例会本会議で
市長が表明した施政方針から、
主な項目を抜粋してお知らせします。



令和6年度を振り返りますと、昨年4月の豊後水道を震源とする地震では、本市で最大震度5強を観測し、南予文化会館や総合体育館、そして、市民の皆さまの住宅など広く被害が及びました。また、同年8月の日向灘を震源とする地震では、運用開始以降初めて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表され、さらに本年1月の同海域における地震においても「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」が発表されました。改めて、南海トラフ地震を身近な脅威として強く認識するとともに、引き続き、「防災・減災対策に終わりはしない」という考えの下、地震のみ

ならず、全国で異常気象の影響により自然災害が頻発化・激甚化していることも踏まえ、防災・減災対策を強化していきます。さて、内閣府による、本年2月の月例経済報告によりますと、我が国の景気は、「一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している」とされています。しかしながら、本市を含む地域経済は、進行する人口減少などにより、先行きは極めて厳しいものと認識しています。一方、本市の財政状況は、財政健全化法に定められた「実質公債費比率」が本庁舎建設事業などの影響で

一時的に上昇しているものの、全体として堅調を維持していますが、人口減少対策をはじめ、防災・減災対策、公共施設やインフラの維持・整備など、避けることのできない課題が山積しています。このような状況を踏まえ、令和7年度当初予算においても、引き続き堅実な財政運営に十分配慮しつつ、まちの魅力を高める施策を展開し、市内外の多くの方々から「選ばれるまち」となることを目指し、当面する諸課題にしっかりと取り組んでいきます。

選ばれるまちへ

令和7年度 施政方針

市内外の多くの人から「選ばれるまち」となることを目指し、「6つの創」の実現に向けて積極的に取り組みます。

1 産業を創る

本市の基幹産業である農林水産業においては、従事者の高齢化や担い手の減少、労働力の不足、生産基盤の老朽化などの課題が深刻化しています。今後の持続的な発展に向けて、意欲ある担い手の確保と育成が極めて重要であることから、引き続き移住支援とも連動しながら、新規就業者に対し研修から自立までをトータルでサポートします。

農業

▼農作業の省力化と効率化を進めることで、担い手を確保・育成するため、農業用ドローンや自走式草刈機などのスマート農業機械の導入支援制度を創設

▼近年増加する鳥獣被害に対し、防護柵設置事業の拡充や捕獲体制の強化により、農作物への被害軽減に取り組む



林業

▼森林環境譲与税を活用し、引き続き「南予森林アカデミー」における担い手の育成に努める

▼森林所有者の意向調査を踏まえた未整備森林の整備促進に努める

▼住宅建築に対する木材の利用促進に努める

水産業

▼厳しい経営環境を考慮し、引き続き赤潮や魚価低迷などのリスクに備えるため漁業共済や積立ぶらすへの加入促進を支援し、漁業経営の安定化に取り組む

▼真珠養殖業において、引き続き、母貝養殖業者への稚貝購入費支援を行うとともに、へい死に耐性のあるアコヤガイの作出や予防技術の検討、漁場のモニタリング調査およびその結果に基づく注意喚起を愛媛県漁協と連携して実施し、日本有数の真珠生産地としての持続的な発展に向けて積極的に取り組む

商工業

▼厳しい経営環境が続く中小企業者などに対して、販路の開拓や人材の育成、DXによる省力化などを支援

▼商店街団体などの自主的な取り組みへの支援に加えて、商店街に新たに出店する事業者を支援

▼県や関連団体と連携し企業誘致活動を展開する一方、市内に拠点を持つ事業者の設備投資や、緊急事態が発生した際の事業継続や迅速な復旧のためのBCP策定を支援するなど、企業留置活動にも努める

▼深刻な労働者不足に対する外国人材の活用を後押しするとともに、物価高騰などの影響を受ける市民生活と地元事業者を支援するため、第8弾となるプレミアム付き商品券事業に取り組む



観光振興

▼市の観光を代表する宇和島城を中心に行われる「伊達なうわじまお城まつり」をはじめ「うわじま牛鬼まつり」などを通じた、さらなる誘客の促進に努める

▼本市の地域資源を活用した「宇和島ならでは」の観光コンテンツの開発を引き続き支援するとともに、地域おこし協力隊による観光闘牛のさらなる振興を目指す

▼地域活性化起業人制度を活用し、デジタルマーケティングの分野で運営実績やノウハウを持つ企業から外部人材を受け入れるなど、事業効果を高め、観光誘客に向けたDX化を推進

▼全国的に急増するインバウンドへの取り組みとして、外国クルーズ船誘致に引き続き取り組むとともに、4月から開催される「大阪・関西万博」において、本市の観光をPRする映像出演などによるプロモーション活動に取り組む

2 安全を創る

1月に、政府の地震調査委員会は、南海トラフ地震が今後30年以内に起きる確率を、これまでの「70～80%」を「80%程度」に引き上げました。本市では、南海トラフ地震などの大規模災害に備え、迅速かつ円滑な復興を実現するため、事前復興に取り組みます。「事前復興まちづくり計画」の策定においては、引き続き、地域住民とのワークシヨップを通じて、それぞれの地域に合わせた復興の方向性を検討します。

災害対応は、行政のみの力では限界があり、市民の皆さん一人一人が「自らの命は自らが守る」「地域の命は、地域が守る」という意識を高めることが重要です。

地域防災力の向上

▼引き続き、家具転倒防止対策や地区防災計画の作成のサポート、防災講習会の開催、防災訓練の支援など、自主防災組織や防災士会などと協力して「自助・共助」による地域防災力の向上に取り組む

▼昨年に続き、木造住宅の耐震化支援の拡充や、老朽化した危険な空き家の除却など、家屋の倒壊から命を守るための取り組みを進める

水道事業

▼能登半島地震や豊後水道を震源とする地震などの災害経験を踏まえ、第8次整備事業計画に沿って、水道管などの整備強化を図る



3 安心を創る

不登校の中学生への支援

▼城東中学校での校内サポートルームにおけるノウハウを基に、市内全ての中学校に校内教育支援センターを設置し、不登校生徒に対する多様な学びの支援体制を充実させ、家庭との連携を強化

在宅支援の充実

▼在宅サービスに関わる介護人材の確保が困難な状況に対応するため、研修受講料などを補助し、介護人材の確保に努める

認知症への対応

▼在宅高齢者への訪問を通じた認知機能検査の実施により、認知症の早期発見と適切な支援につなげ、症状の進行や重症化を遅らせることを目指す

障がい福祉

▼障がい者計画・障がい福祉計画に基づき、視覚障がい者への代筆・代読の事業を新設するなど、障がいのある人にもやさしいまちづくりを推進

人権を尊重する取り組み

▼全ての市民が、性の在り方に関わらず、自分自身を大切にし、自分らしく生き、互いを認め合える社会の実現を目指す取り組みの1つとして、4月よりパートナーシップ・ファミリーシップ制度を創設

病院事業

▼宇和島病院で電子処方箋の運用を開始するなど、DXの推進により、医療従事者の負担を軽減するとともに、看護師をはじめとする医療人材の確保に引き続き取り組み、安全で質の高い医療サービスの提供を目指す
▼今夏に宇和島病院エネルギーセンターの供用開始を見込み、災害拠点病院としての機能を強化





▼吉田・津島病院および介護老人保健施設で、令和6年度に実施した専門業者による経営分析の結果を基に、将来の医療・介護ニーズに対応した施設の在り方を引き続き検討

▼コミュニティバスの利便性向上
吉田地区・三間地区で、津島地区と同様にフリー乗降を導入し、引き続き、地域の実情に応じた公共交通の維持、確保に努める

4人を創る

若年層の転出が進んでいることなどから、婚姻件数や出生数も減少しています。これまで、子育て世代から選ばれるまちを目指し、市独自の給付金やおむつ券の配布、保育料の軽減措置、18歳までの子どもの医療費無償化など、さまざまな子育て支援を実施してきましたが、最近の調査では、平成30〜令和4年の合計特殊出生率が、前回調査と比べ0.19ポイント低下して1.56となりました。少子化の流れを止めるためには、まず、婚姻件数を増やすことが必要です。

結婚支援

▼SNSを活用した情報発信を強化することで、結婚を希望する男女に向けたPRを行い、うわじまMIセンターやえひめ結婚支援センターの登録者を増やすことにより、婚活イベントやセミナーへの参加につなげる
▼国や県の財源を活用しつつ、新婚世帯への経済的な支援を継続

妊活支援

▼子育て世代包括支援センターにおいて、将来妊娠を望む夫婦が希望する時期に検査や治療が受けられるよう支援するとともに、若い世代から将来のライフプランを考えて日々の生活や健康に向き合う「プレコンセプションケア」の重要性を啓発
子育てしやすいまちづくり

▼地域子育て支援センターや病児保育の充実、安定的な保育サービスの提供、保育士の確保など、子育て世代が安心して過ごせる環境を整備

▼令和6年度から実施している出産後の奨学金返還支援について、年齢要件を撤廃して全ての出生を支援
▼食材費の高騰に対応し、栄養バランスのとれた給食を提供できるように学校給食や民間保育所などへの公費負担を継続

▼生活困窮世帯に対し生活・学習支援を行い、全ての子どもたちが健やかに成長し、自分の未来を選ぶことができる環境を整備

ホリバタ事業

▼さまざまなプログラムを実施するなど居場所づくりに取り組み、日常での利用が大きく伸びていることから、拠点施設としてより一層の機能充実を図るため、大規模改修工事に着手



5 まちを創る

新伊達博物館

▼地域の歴史文化の継承、伊達文化エリアの観光・交流拠点として、新博物館、広場、天救園が一体となった魅力ある空間を目指すとともに、積極的に情報を発信し、市内外の多くの人に愛される博物館となるよう、令和10年春の開館に向けて、着実に事業を進める

文化財

▼現存12天守の1つである宇和島城をはじめ、数々の貴重な文化財の保存と活用を図るとともに、郷土にゆかりのある偉人の顕彰などを通じて、文化財保護の意識向上や郷土愛の醸成に努める

▼国の重要無形民俗文化財として答申された「吉田祭のお練り行事」と、令和5年度に重要伝統的建造物群保存地区に選定された「津島町岩松の町並み」について、シンポジウムや勉強会などを開催し、地域住民と協力しながら、情報発信に努める

シティセールス

▼本市がこれまで展開してきた成果を踏まえ「アートによる地域振興」を通じた「まちの賑わいづくり」に新たに取り組む

▼リーディング事業として写真をテーマとした作品を屋外に展示する「宇和島フォトフェスティバル」を10月下旬から11月下旬まで開催し、アートやデザイン力によって、本市の持つ魅力やその価値を高め、交流人口の拡大につなげる

道の 駅津島熱田温泉

▼サウナを併設した温浴施設、特産品販売所、レストランなどの複合的な機能を備えた道の駅としてリニューアルを図るため、昨年8月に建設工事に着手し、令和8年のゴールデンウィーク前のオープンを目指す

公園施設

▼子どもたちの心身の健全な発育・発達に寄与するため、公園遊具の改修・整備を計画的に実施し、併せて公園をはじめとする公衆トイレについても、快適に利用できるように整備

▼丸山公園の野球場周辺施設や石丸公園について、全体的な老朽化が進んでいることから、既存施設の活用を含めた再整備を進める

公民館

▼地域社会の交流拠点として日常的に、気軽に利用してもらえよう、さまざまな事業・イベント・講座などを実施・開催するとともに、吉田町の喜佐方公民館について、廃校後の喜佐方小学校校舎への移転改修工事を進める

海洋ごみ対策

▼市内のボランティア活動はもとより、愛媛県を含む瀬戸内4県と日本財団により発足された「瀬戸内オーシャンズX推進協議会」の尽力により、立ち入り困難な海岸での大規模なごみ回収事業が実施されている。今後とも宇和海の美しい景観と豊かさを守り維持していくために協力の体制を強化した上で、体験型の清掃ツアーなどに取り組みとともに、自治会、ボランティア団体、漁業関係者、学生など、さまざまな主体と連携しながら取り組みを推進



6 チームうわじまを創る

市民協働のまちづくり

- ▼市民・行政・自治会・NPO・企業など、オール宇和島による「市民協働のまちづくり」を推進し、「市民活動拠点」の整備や自治会の加入促進・活動の活性化を図り、多様な主体が活躍できるよう自主的な活動を後押しする取り組みを進める

仙台市歴史姉妹都市50周年

- ▼11月3日に、仙台・伊達家との縁により仙台市と歴史姉妹都市を盟約してから記念すべき50周年を迎えるにあたり、両市の特別な絆を再認識し、他の姉妹都市も含め、今後も相互交流を深める

D Xの推進

- ▼郵便局と連携したマイナンバーカードの普及促進や「書かない窓口」の充実に加え、公共施設予約システムとスマートロックの連携による利用者の負担軽減などに取り組む
- ▼生成AIの活用を推進し、職員の仕事効率化を図り生産性を高めることで、行政サービスの向上を目指す

そのほか重点施策

平成30年7月豪雨災害関連

- ▼玉津地区および立間地区の農地再編復旧について、引き続き実施主体である愛媛県と連携を図りながら、1日も早い営農再開に向けて、円滑な事業推進に努める

小学校統廃合

- ▼4月に、吉田町内の5つの小学校を統合した「吉田小学校」を新たに開校し、結出小学校を遊子小学校に統合
- ▼蔭淵小学校を遊子小学校に、三浦小学校を番城小学校に統合するため、令和8年4月の統合に向けて準備を進める

学校事業

- ▼教職員の働き方改革に対する取り組みとして、子どもと向き合う時間の確保とワークライフバランスの実現を図るため、令和6年度に実施した業務改善コンサルタント事業の成果を基に、継続的に改善に取り組む

合併20周年事業

- ▼8月1日に、1市3町が合併して20周年を迎えるにあたり、節目の年を祝う記念事業に市を挙げて取り組む



- ▼部活動の地域移行について、移行が可能なものから段階的に進める
- ▼ICTの活用や授業改善による児童生徒の確かな学力の定着、通級指導教室の巡回指導による対象児童生徒への支援体制の充実、学校のDX化や人的支援などに取り組む